

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 22 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380661

研究課題名(和文) 国際移民の市民権変容と社会統合に関する国際比較研究

研究課題名(英文) Citizenship Change and Social Integration of International Migration: An International Comparison

研究代表者

樽本 英樹 (Tarumoto, Hideki)

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：50271705

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：「国際移民による国民国家への挑戦」の観点から移民・外国人に関する市民権制度の変容と社会統合との関係を考察していった。比較的包摂的だとされる多文化市民権を採用していった社会では、一定程度の社会統合が実現していると考えられる。しかし近年、ムスリム移民の増加・問題化や移民・難民の急増などから多文化市民権の再考が急速に進んでいる。このような多文化市民権をめぐる経験に鑑みて、日本のようなエスノナショナルな市民権を残存させている社会も多文化市民権の少なくとも部分的な導入が求められていく。しかし、同時に多文化市民権の修正をも求められるであろう。

研究成果の概要(英文)：Based on the issue of the challenge to the nation-state, This research explored relationship between change of citizenship institution and social integration of foreigners and international immigrants. Some countries have adopted relatively inclusive multicultural citizenship, thereby realising integration of foreigners/immigrants to a extent. However, due to increase of Muslim stayers and new immigrants/asylum seekers, they reconsider validity of multicultural citizenship. According to these experiences, countries with ethno-cultural citizenship like Japan will be pressed to introduce multicultural citizenship, following reconsideration of it.

研究分野：国際社会学

キーワード：国際移民 市民権 社会統合

## 1. 研究開始当初の背景

戦後国際人口移動の活発化の結果、先進諸国へ異なる文化を持ったエスニック・マイノリティが移民として流入し、様々な社会問題が生じている。それら諸問題は「国民国家」という枠組みがどこまで有効なのかという極めて切実な問いを提示している。しかし、「国民国家という枠組みへの懐疑」が具体的にいかなる問題なのかという点に関しては、意外なほど明らかではない。

1980年代終わりから、マクロ的志向を持つ国際移動論・エスニシティ論研究者はこの「懐疑」を「国際移民による『国民国家への挑戦』が生じているのかどうか」という問題に定式化して論争してきた。具体的には、「国民国家への挑戦」は以下の2つの観点で議論されている。第1に、出入国管理に関わる主権への挑戦（「国家主権への挑戦」）。すなわち、グローバル化のために国家による移民管理がうまくいかなくなっているのではないかと、国家主権は衰退しているのではないかという観点。第2に、単一均質なメンバーシップとしての市民権への挑戦（「ナショナル市民権への挑戦」）。すなわち、市民権の国民国家モデルに対して市民権の新しいモデルが安定的な代替案として出現してきたのではないかという観点。この論争にはいまだ決着がつかない。議論を進展させるためには新たな視角の導入が望まれる時期にきている。

## 2. 研究の目的

「国際移民による国民国家への挑戦」論争は、グローバルな環境の急激な変容のため新たな視角からの検討を必要としている。本研究は、国際比較の観点から移民に関わる市民権制度の変容を探究することを目指すけれども、その探究を市民権制度の変容と国際移民の社会統合との関係の観点から行うことである。具体的には以下の研究目的を設定する。第1に、欧米諸国だけでなくアジア諸国にも焦点を合わせつつ国際比較的な観点から研究を行うこと。第2に、社会的・経済的・政治的諸要因によって変容した市民権制度によって、移民・外国人の社会統合が推進されたかどうかを理論的・実証的に説明すること。

## 3. 研究の方法

市民権制度の変容と社会統合との関係を探究するため、次の4つの段階を踏んだ。第1に、既存研究のサーベイを集中的に実施し、ヨーロッパ諸国に対する理論化が適切かどうかを批判的に検証した。第2に、欧米諸国における近年の市民権制度変容の状況をも把握し、実証的な適切性を検証した。第3に、市民権制度と社会統合の状況を排外主義に

絞って文献資料などを用いて把握した。最後に、市民権制度と社会統合との関係を実証的に説明しようとした。

## 4. 研究成果

移民・外国人の社会統合を近年世界中でわき起こっている排外主義に焦点を合わせて市民権制度との関係を考えた場合、以下のように考えられることがわかった。最も大きな問題は、排外主義の解決や緩和のためには、どのような社会規範や政策枠組みを構築すればよいのだろうかというものである。市民権論の理論視角によれば、排外主義とは行為者、集合体または制度による市民としての承認を拒む態度および行為と把握することができ、包摂的な市民権を創出することが解決の糸口であると示唆される。たとえば英国は、新英連邦移民に対する排外主義に対処するため比較的包摂的な多文化市民権を採用してきた。多文化市民権の前提となっているのは諸問題が人種関係間で生起するという人種関係パラダイムである。しかし人種関係パラダイムは、移民の「超多様性」や極右政党の台頭などの排外主義、およびマイノリティによる過激主義によって1990年代以降ゆらぎを経験している。そのようなゆらぎに対応するため、英国の多文化市民権は包摂性を回復すべく、コミュニティ結合、宗教の編入、間文化主義といった修正案ないしは代替案に直面している。この傾向は、多文化市民権を採用している他国も共有するものである。一方、アジアの一国である日本は強固なエスニック市民権を残存させており、ヘイトスピーチなどさらなる排外主義に対処するため多文化市民権の採用とその後の検討が今後求められるであろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

(1) 樽本英樹 2017「英国における多文化市民権と排外主義 - ヘイトスピーチ規制に着目して」『移民政策研究』9:22-37. [査読無]

(2) Tarumoto, Hideki 2015 E'urgence et gestion des nouvelles tendances migratoires: le cas Japon, *Migration Socie'te'*, 27(157): 97-109. (Traduit de l'anglais par Catherine Wihtol de Wenden et Myrna Giovannella) [査読無]

(3) Tarumoto, Hideki 2014 The Transformation of Citizenship Institutions in the Global Migration Era 『コロキウム』8: 80-95. [査読無]

(4) 樽本英樹 2014「領土と市民権 - 国境変容へのひとつのアプローチ」『境界研究』特別号: 29-39. [査読無]

[学会発表](計19件)

- (1) Tarumoto, Hideki 2014 Reconsidering Citizenship Policy on Migrants in Japan (A One-Day Symposium, 'Immigration Nation Japan? Immigration Policy, Immigrant Integration, and the Future of Japan,' the Center for Japanese Religious and Culture, the University of Southern California on Friday, April 25, 2014).
- (2) 樽本英樹 2014「移民研究における比較的方法の可能性 - 移民市民権政策の観点から」(シンポジウム「移民を比較することで何が見えるのか?」日本移民学会第24回年次大会 於 和歌山大学, 和歌山県和歌山市, 2014/6/28).
- (3) Tarumoto, Hideki 2014 Emergence and Handling of New Trends in Migration (New Trends in Migration Flows, RC31 Sociology of Migration, XVIII International Sociological Association (ISA) World Congress of Sociologists, 'Facing an Unequal World: Challenges for Global Sociology', Yokohama, Japan, July 13-19, 2014).
- (4) Tarumoto, Hideki 2014 Immigration and Social Governance: East Asian Concerns (The 14th East Asian Sociologists' Conference, 'Social Governance: Challenge and Response in East Asian Countries,' Peking University, Beijing, China, October 25-26 2014).
- (5) 樽本英樹 2014「移民市民権政策と比較分析」(第87回日本社会学会大会 於 神戸大学, 兵庫県神戸市, 2014/11/22,23).
- (6) Tarumoto, Hideki 2015 Migration, Xenophobia and Citizenship (Sociology of Law on the Move: Perspectives from Latin America, by Unilasalle, Research Committee 12 on Sociology of Law of the ISA, and Associacao Brasileira de Pesquisadores em Sociologia do Direito, Canoas, Brazil, May 5-8, 2015).
- (7) Tarumoto, Hideki 2015 Migration and Citizenship in Social Design (Session 1: Social Scientific Vision and Policy, the

22nd IFSSO General Assembly and International Conference: 'Glocalization: A Social Scientific Approach towards Social Design for the Creation of Multicultural Society', Seijyo University, 東京都世田谷区, May 29-31, 2015).

- (8) Tarumoto, Hideki 2015 Japanese Development of Local Immigration Management (Migrinter Workshop: Migrations and New Local Governance, MSHS, University of Poitiers, France, 10-11 December 2015).
- (9) Tarumoto, Hideki 2015 Dicussant at the Fourth Session: Development and Stratification (A Conference of the East Asian Sociologists' Network, Yokohama National University, Yokohama, Japan, November 14-15 2015).
- (10) Tarumoto, Hideki 2015 Local Management of Migration from the East Asian Perspective (A Conference of the East Asian Sociologists' Network, Yokohama National University, Yokohama, Japan, November 14-15 2015).
- (11)樽本英樹 2015「エスニック排外主義と市民権」(第88回日本社会学会大会 於 早稲田大学, 東京都新宿区, 2015/9/19,20).
- (12)Tarumoto, Hideki 2016 Reconsidering Migrant Integration from an East Asian Perspective (International Conference: Migration in a Turbulent World, by ISA Research Committee on the Sociology of Migration, RC31, and Doha Institute for Graduate Studies, Doha, Qatar, 26-28 November 2016).
- (13)Tarumoto, Hideki 2016 Migration and Citizenship Policies of East Asia and Japan in the 21st Century (The 14th East Asian Sociologists Network Conference, Chung-Ang University, Seoul, Korea, November 5-6 2016).
- (14)樽本英樹 2016「英国における移民と排外主義」(第89回日本社会学会大会 於 九州大学 2016年10月8日、9日, 福岡県福岡市).
- (15)Tarumoto, Hideki 2016 The Future Trend of Migration in East Asia and Japan (Migrations in the 2020. Trends and Policies; RC31 Sociology of

Migration; The 3rd ISA Forum of Sociology, The Future We Want: Global Sociology and the Struggles for a Better World, Vienna, Austria, July 10-14, 2016).

(16) 樽本英樹 2016 「ヨーロッパ難民危機の国際社会学的インプリケーション」(北星学園大学 2016 年度福祉計画学科研究会, 於 北星学園大学, 北海道札幌市 2016 年 5 月 11 日).

(17) 樽本英樹 2016 「ヨーロッパ難民危機の構造と影響」(国際シンポジウム「中東難民と欧州統合」於 明治大学 (駿河台), 東京都千代田区, 2016 年 3 月 24 日).

(18) 樽本英樹 2016 「ヨーロッパ難民危機と越境移動」(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター (SRC) 境界研究ユニット「越境する中東難民と欧州安全保障」於 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター, 北海道札幌市, 2016 年 2 月 18 日).

(19) 樽本英樹 2016 「多文化社会への挑戦 - ヨーロッパから日本へ」(2015 年度 龍谷大学国際文化学研究科シンポジウム「文化のはざまを生きる ~ 日本とヨーロッパにおける第二世代移民 ~」龍谷大学深草学舎 和顔館 B108, 京都府京都市, 2016 年 1 月 27 日).

〔図書〕(計 6 件)

(1) Seung Kuk Kim, Peilin Li, Shujiro Yazawa (eds) 2014 *A Quest for East Asian Sociologies*, Seoul: Seoul National University Press (Tarumoto, Hideki, Multiculturalism and Asian Experiences: 313-28).

(2) Hyun-Chin Lim, Wolf Sch" afer, and Suk-Man Hwang (eds) 2014 *Global Challenges in Asia: New Development Models and Regional Community Building*, Seoul: Seoul National University Press: (Tarumoto, Hideki, Migration, Multicultural Crises and Asia: 195-212).

(3) 細田典明編著 2015『北大文学研究科ライブラリ 10 食と文化 - 時空をこえた食卓から』北海道大学出版会 (樽本英樹, 「フランスに見る食と文化の国際社会学」: 219-47).

(4) 細田典明編著 2015『北大文学研究科ライブラリ 9 旅と交流 - 旅からみる世界と歴史』北海道大学出版会 (樽本英樹, 「国

境を越える旅の社会学」: 235-53).

(5) 西原和久・樽本英樹編著 2016『現代人の国際社会学・入門 - トランスナショナルリズムという視点』有斐閣, 311 ページ.

(6) 樽本英樹 2016『よくわかる国際社会学』(第 2 版) ミネルヴァ書房, 239 ページ.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者  
樽本 英樹 (TARUMOTO, Hideki)  
北海道大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号: 5 0 2 7 1 7 0 5

(2) 研究分担者  
( )

研究者番号:

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号:

(4) 研究協力者  
( )